

大田区町工場

田中 隆

一般的な話をしてもしも浅くなってしまうので、今回はごく身近な自分の会社と大田区とのかかわりを中心に進めていく。

小生（田中隆六四歳）、現在は有限会社安久工機（やすひさこうき）の社長。

社名の「安久」は先代社長（父親田中文夫、故人）の出身宮崎県都市安久から取ったもの。

「安久」と言えば昨年四月頃はWEB上で元号候補にもなっていた。ただ、元号候補の読み名は「アンキユウ」。もし「安久」に決まっていたらオヤジもびつくりして墓から飛び出してきたかもしれない。

安久工機も大田区で創業して今年でちょうど五〇周年。創業までの経緯を紹介。

父親が安久で生まれたのは一九五〇年。貧しいながらも何とか高校を卒業（泉が丘高校一期生、東国原氏出身校）。東京での大学進学のためにはまず上京費用の工面。一九四九年、当時の手取り早い資金稼ぎのため福岡の炭鉱へ行って数ヵ月後、落盤事故に遭遇して左肩

周囲を複雑骨折。それでも上京の想いを諦めきれず、一九五〇年に労災見舞金を抱えて上京。昼間はバイト的に金を稼ぎ夜は夜間大学と二束の草鞋を始めたが、骨折部が完治しておらず一九五三年に両立は断念。この年の一二月に大田区の町工場（東洋精機）に就職。営業から加工技術へとノウハウを蓄積していった。一五年後、下丸子で安久工機をスタート。中学二年のときだった。自宅は板橋区にあつたので、大田区まで車通勤していた。

そんな訳で、小生も地元板橋区内の小学校・中学校・高校に通つたので、人的にも大田区との接点はほぼ無かつた。当時は北辰電機が現キャンノン本社場所であり、安久工機は北辰電機関係の精密部品・航空計器部品等の製作に関わっていた。

そんな折り、早稲田大学理工学部土屋助教より連絡が入つた。早稲田大学と東京女子医科大学とでスタートした人工心臓システム開発にモノづくり側として参画して欲しいという内容だった。土屋助教は早稲田大学理工学部を卒業した後、北辰電機に入社し、数年間働いてから母校に戻り、助教教授になった。父親の仕事ぶりを北辰電機就職時代に聞きつけたのがプロジェクト参画のきっかけとなつたようだ。

今こそ産学連携・医工連携と言われるが、五〇年前から行っていた。

時は過ぎて、昭和五〇年大学機械科修士一年、そろそろ



国循時代(クリーンルーム作業)

進路を決めるとき。巷は就職率も上向きになってきた頃。就職先を一般企業か安久工機か決めかねているときに父親から「お前は安久工機に入るんだろう(な)?」の一言。若気のいたりもあり、カチンと来て「そのつもりは無いから!」の条件反射的な強気の返事。その一言で父親もカチンと来たか「お前の勝手にしろ!!」。改めてじっくり考えると、やはり客先の顔が直接見えて、設計・加工・組立てまでフルコースで関われる安久工機に魅力を感じ、父親に回答。それからは入社後の安久工機の進む方向も見据えた展開の仕方についての話。

今後は医療系にさらに重きを置くことに決め、父親のツテを辿って当時大阪にあった国立循環器病センター研究所(以下国循)人工臓器部所属の梅津研究員(前述の土屋研究室出身で現早稲田大学先端生命科学センター教授)に打診し、研修生としてお世話になることになった。

昭和五七年五月〜昭和六一年四月まで、四年間の大阪生活だった。

最初は医学用語のマスターから始まり、人工心臓作り、人工弁性能試験、シミュレータ設計、動物実験管理・当直等、忙しい日々だった。そんな中、昭和五七年一月に結婚(田中葉子)し、休みの日には住いのあった吹田市から神戸や京都、も少し足を伸ばして奈良へと、出かけていった。良い骨休みとなった。

国循での思い出のひとつは、昭和五七年暮れに国循で初

めて人工心臓が臨床応用されたが、小生が製作した人工心臓であった。性能に問題無い自身はあったが、緊張が解けなかったことを覚えている。

もうひとつは、小型人工心臓を装着して回復傾向にあった三歳の男の子が、体調が急変して亡くなってしまったことだ。当直グループの一員として参加していたが、亡くなった子供さんの奥さんがうなだれるようにご主人の肩に寄り添ったのを見たとき、自分と同世代でもあり、こらえきれずに医局へ行って涙した。

四年間の国循生活を通して様々なことを学び、多くの人脈を築くことができた。

一九八六年五月から、正式に安久工機に入社。営業・設計・加工・組立て、一通り関わることとなった。国循時代の関係施設からも人工心臓やシミュレータ関係の設計・製作依頼が入ってきた。

仕事以外趣味では「四季の味」を購読していたが、「破損したグラスの縁も修理します。」の記事が目にとまり、よく見るとその店が蒲田にあるとのこと。早速昼休みに車でお邪魔。

鍋谷さん@フォレストとの出会いだっただ。

・触図筆ペンについて

平成一六年に香川盲学校美術教師栗田先生からのFA Xが仕事仲間から転送され、開発がスタート。先方も弊社も開発資金がない中、大田区・経産省・厚労省と補助金を

確保して改良を重ねていくことが出来た。

平成二〇年〜平成二二年には「遠き道展」という国内巡回日本画展があり、その中で視覚障がい者の美術表現手段として触図筆ペンが採用され、各地でワークショップを行った。鹿児島会場では、絵の好きな弱視の小学六年の女の子が屋久島から一日がかりでお母さんと来られ、黙々と花の絵を描いていた。

触図筆ペン開発過程



東京会場では、二〇歳前後の男性(晴眼者)が触図筆ペンで「お誕生日おめでとう」と書いていた。

小生「彼女にでも書いたの?」

男性「お母さんに。」とひとこと言って、用紙を丸めて大事そうに抱えて出て行った。

きつと視覚障がいのお母さんへのプレゼントだったと思う。

東京会場では、皇族の方々もお見えになった。常陸宮華子様からは本業は何なのか質問を受けた。別の日には秋篠宮紀子様が二人のお嬢様と来られたが、“お忍び”ということでは証拠写真が無いのが残念!!!

平成二四年には「ラピコ」という名称で商品化。盲学校等を中心に販売活動中。

この年の二月には触図筆ペン開発とワークショップ等の展開が評価され、東京都より「福祉のまちづくり功労者表彰」を受賞した。そのときの都知事は猪瀬さんだった。

・ 社会人博士課程

国循環時代から安久工機入社以降も早稲田大学理工学部〜早稲田大学先端生命医科学センターと、梅津教授のもと、人工心臓研究にも関わってきた。

平成一六年に梅津教授から社会人博士課程の話聞き、研究業績もある程度蓄積してきたこともあり“一念発起”、チャレンジを決意。

一年間の準備を経て、平成一七年春に入学試験(面接)。こともあろうに試験時間を勘違い。弟に車を飛ばしてもらって、面接時間ギリギリに到着。



博士号授与式(妻・娘と)

いくら研究業績があろうとも、遅刻は問題外なので、いささかビビりました。

無事面接は通過し、五一歳の学生生活がスタート。

が、この年の暮れに父親(当時社長)が亡くなり、平成一八年から社長に就任。父親は生前から「おまえにはまだ社長を任せられない。」と言っていた。

この年から社長・社内設計業務・学生の「三足のわらじ」となった。

足かけ6年かかったが、期限ギリギリで平成二三年に博士号(工学)を取得。

協力してくれた皆さんに感謝しかありません。

特に博士論文の謝辞の最後の文章下記。

「最後に、五〇台半ばでの博士号取得に協力してくれた家族に感謝します。特に自分のこと以上に著者の健康管理に注意し、相談相手ともなってくれた妻葉子に心より感謝します。

Thank you・謝々・감사합니다・Merci・Grazie・Gracias・

Danke そつて ありがとう。

「工和会協同組合」について

安久工機は現在「工和会協同組合」に所属している。ここからは工和会関係について紹介する。

昭和二三年に町工場同士の相互扶助を目的として「工和会」が発足。

昭和二八年に並行して「工和会協同組合」が発足。

大田区の他の地域でも同様の町工場団体が現れ始め、昭和三四年には蒲田工業協会・大森工場協会・東調布工業会・工和会協同組合の四団体が集まって「大田工業連合会」(大田工連)を結成した。

大田工連ネットワークの沿革 2019年8月現在

(社) 大田工業連合会(延べ765社) 大田工連青年部連絡協議会

- | | |
|--------------------------|----------------|
| ①蒲田工業協会(S.34) | 蒲田工業経営研究会 |
| ②(社)大森工場協会(S.34) | 大森工場協会YMクラブ |
| ③工和会協同組合(S.34) | 工和成年会 |
| ④都南工業給食協同組合(S.38) | |
| ⑤蒲田工業協同組合(S.38) | 蒲田工業協同組合木鶏会青年部 |
| ⑥東京都京浜島工業団地協同組合連合会(S.63) | |
| ⑦仲池上商工業振興会(S.63) | |
| ⑧東京シートメタル工業会(H.14) | |
| ⑨城南島連合会(H.23) | |
-
- | | |
|------|--------------|
| S.34 | 大田工連結成(4団体) |
| S.37 | 社団法人化 |
| S.38 | 5団体加入 |
| S.41 | 工連青年部連絡協議会結成 |
| S.63 | 2団体加入 |
| H.14 | 1団体加入 |
| H.23 | 1団体加入 |

そんな中で、工和会協同組合も含め当時五団体が青年部組織を有し、昭和四一年には「工連青年部連絡協議会」(工連青年部)を結成し、各団体の垣根を越えた若い会員達の活動の場となっている。毎年三月の「ザ・パーティー」は工連青年部主催のメインイベントとなっており、一月の



「大田ふれあいフェスタ」も各団体が共同して出展している。

大田工連は令和元年七月現在で九団体が参加し、延べ七六五社が参加している。

平成二〇年には工和会と工和会協同組合とが合併し、「工和会協同組合」となった。

工和会協同組合のメインイベントはビアパーティーとおたオープンファクトリーのふたつ。

1. ビアパーティー

毎年九月第一金曜日が開催日で、今年で三三二回目を終えたメイン事業のひとつ。

大田区民プラザを会場にして、七〇〇人程度が参加（防災上、問題ある人数のようですが・・・）。

飲食付きで、毎回出演者が異なるステージショーもあり（予算の関係で高額ギャラは無理ですが）、確率の高い抽

選会も人気。この日会員はもっぱらもてなす

側に回り、来場者の皆さんに楽しんでもらえるよう心がけます。昨年出演の坂本冬休みさんは、今までの五本の指に入るぐらい受けて

ました。まだ、ごらんになったことの無い方は、ぜひTV等でどうぞ。また、余り高くないギャラで出演してくれる方、募集中です。

どなたかご存知でしたらご一報を。

2. おたオープンファクトリー

工場を一般の人にオープンする日で今年で九回目を迎える。

また、並行して様々なイベントも企画。

下丸子・矢口界限は「新田丸（にったまる）」の名称で、

二〇社を超える会員企業が参加。一般の人にわかりやすく説明することを心がけている。やってみると中々難しいが、オープン企業従業員のモチベーションアップにもなっている。

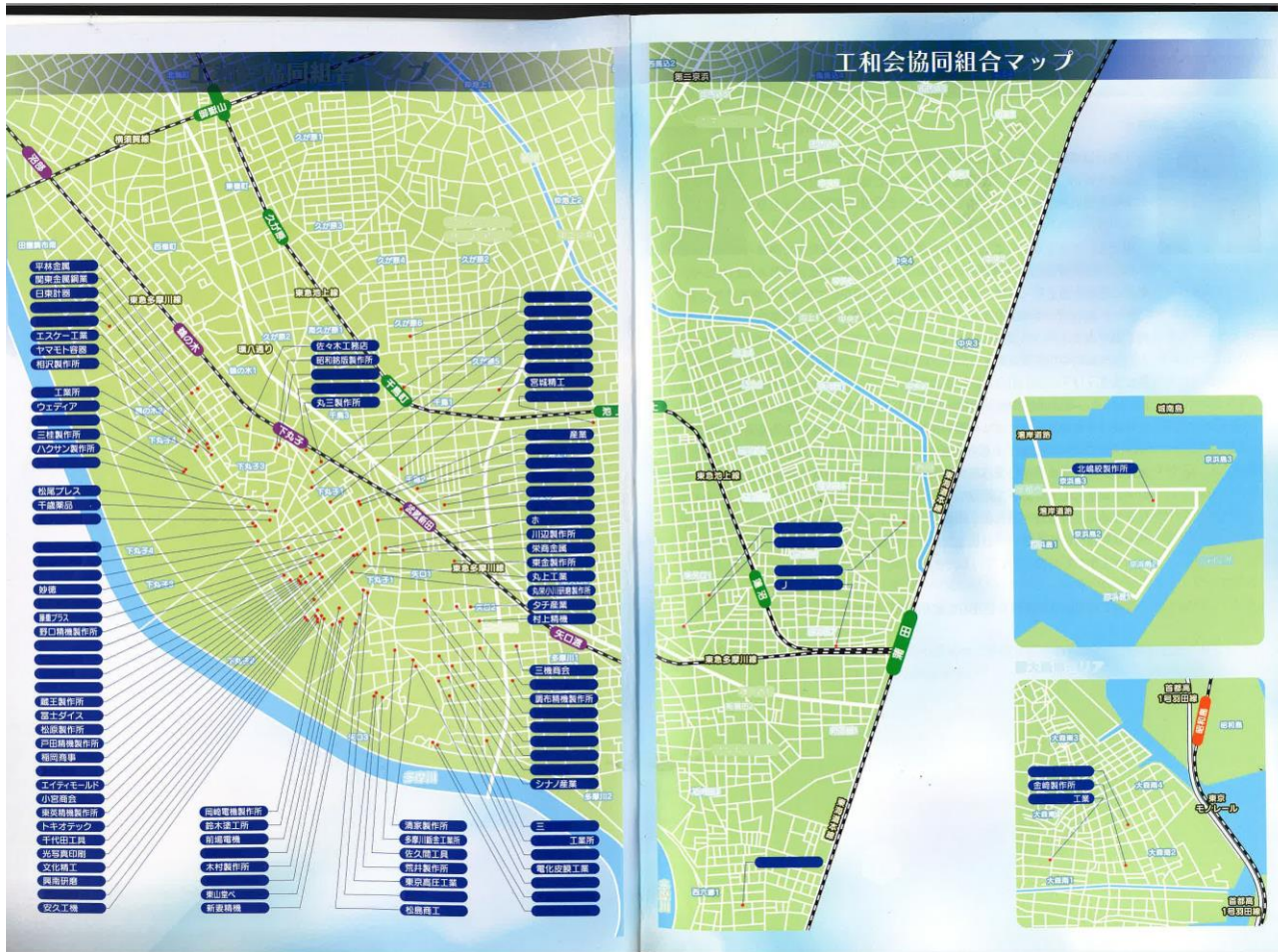
二〇二〇年は第一〇回でもあり、新たな企画も乞うご期待！

平成三一年五月に工和会協同組合第二二代理事長に就任。

三五年間大田区で働いているとは言え、最初に述べた通り板橋区出身の“外様”であり、まだまだ下丸子界限のことは知り尽くしていない。

そこで理事長最初の仕事として、工和会会員企業約一〇社（次ページ添付図）に直接挨拶回りをすることにした。





六月に入ってからまずは近い会社からスタート。さすが町工場集積の町大田区だけあって、徒歩・自転車結構周れる。通い慣れたる会社、地図を頼りに初めて行く会社、四週間ほどで九割がた終了。京浜島や川崎等に工場を持つ会員企業はさすがに自転車は無理なので車で訪問。延べ一カ月半ほどかけて会員企業周りが完了した。

理事長二年目の令和元年。

気分も新たに会員企業のためにがんばります！